

中間連結財務諸表

平成20年度中間期（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）、平成21年度中間期（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）の中間連結財務諸表は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの中間監査を受け、適正である旨の中間監査報告書を受領しております。

なお、監査法人トーマツは、監査法人の種類の変更により、平成21年7月1日をもって有限責任監査法人トーマツとなっております。

| 科 目 | 平成20年度中間期 (平成20年9月30日現在) | 平成21年度中間期 (平成21年9月30日現在) |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 現金預け金 | 21,892 | 42,799 |
| コールローン及び買入手形 | 20,000 | 20,000 |
| 買入金銭債権 | 113 | 9 |
| 商品有価証券 | 54 | 53 |
| 金銭の信託 | 3,000 | 3,000 |
| 有価証券 | 357,926 | 346,065 |
| 貸出金 | 824,914 | 841,600 |
| 外国為替 | 3,852 | 3,727 |
| その他資産 | 4,915 | 4,705 |
| 有形固定資産 | 14,075 | 14,296 |
| 無形固定資産 | 1,365 | 1,000 |
| 繰延税金資産 | 7,293 | 5,948 |
| 支払承諾見返 | 3,620 | 3,434 |
| 貸倒引当金 | △ 10,691 | △ 10,064 |
| 資産の部合計 | 1,252,332 | 1,276,576 |

| 科 目 | 平成20年度中間期 (平成20年9月30日現在) | 平成21年度中間期 (平成21年9月30日現在) |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 預金 | 1,163,812 | 1,186,200 |
| コールマネー及び売渡手形 | 1,036 | 902 |
| 借入金 | 2,000 | 2,000 |
| 外国為替 | 0 | 2 |
| 社債 | 8,000 | 8,000 |
| その他負債 | 7,233 | 5,878 |
| 賞与引当金 | 869 | 853 |
| 役員賞与引当金 | 16 | 18 |
| 退職給付引当金 | 5,393 | 5,290 |
| 役員退職慰労引当金 | 168 | 217 |
| 睡眠預金払戻損失引当金 | 189 | 199 |
| 利息返還損失引当金 | 39 | 20 |
| 偶発損失引当金 | 629 | 609 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 2,469 | 2,458 |
| 支払承諾 | 3,620 | 3,434 |
| 負債の部合計 | 1,195,477 | 1,216,086 |

| 科 目 | 平成20年度中間期 (平成20年9月30日現在) | 平成21年度中間期 (平成21年9月30日現在) |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 資本金 | 10,000 | 10,000 |
| 資本剰余金 | 8,208 | 8,208 |
| 利益剰余金 | 36,732 | 37,108 |
| 自己株式 | △ 120 | △ 123 |
| 株主資本合計 | 54,820 | 55,193 |
| その他有価証券評価差額金 | △ 445 | 2,819 |
| 土地再評価差額金 | 2,241 | 2,226 |
| 評価・換算差額等合計 | 1,796 | 5,046 |
| 少数株主持分 | 238 | 249 |
| 純資産の部合計 | 56,854 | 60,490 |
| 負債及び純資産の部合計 | 1,252,332 | 1,276,576 |

| 科 目 | 平成20年度中間期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで) | 平成21年度中間期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで) |
|---------------|--|--|
| 経常収益 | 14,373 | 13,132 |
| 資金運用収益 | 11,914 | 11,385 |
| （うち貸出金利息） | (9,590) | (9,032) |
| （うち有価証券利息配当金） | (2,177) | (2,294) |
| 役務取引等収益 | 1,103 | 995 |
| その他業務収益 | 60 | 343 |
| その他経常収益 | 1,293 | 408 |
| 経常費用 | 12,664 | 11,809 |
| 資金調達費用 | 1,970 | 1,503 |
| （うち預金利息） | (1,847) | (1,392) |
| 役務取引等費用 | 831 | 755 |
| その他業務費用 | 629 | 0 |
| 営業経費 | 7,398 | 7,569 |
| その他経常費用 | 1,834 | 1,980 |
| 経常利益 | 1,708 | 1,323 |
| 特別利益 | 171 | 542 |
| 固定資産処分益 | 19 | 3 |
| 貸倒引当金戻入益 | — | 433 |
| 償却債権取立益 | 151 | 93 |
| その他の特別利益 | — | 11 |
| 特別損失 | 42 | 65 |
| 固定資産処分損 | 42 | 36 |
| 減損損失 | — | 29 |
| 税金等調整前中間純利益 | 1,836 | 1,799 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,058 | 277 |
| 過年度法人税等 | — | 607 |
| 法人税等調整額 | △ 407 | △ 23 |
| 法人税等合計 | 650 | 860 |
| 少数株主利益 | 4 | 11 |
| 中間純利益 | 1,181 | 927 |

中間連結株主資本等変動計算書

(単位 百万円)

| | 平成20年度中間期 (平成20年4月1日から平成20年9月30日まで) | 平成21年度中間期 (平成21年4月1日から平成21年9月30日まで) |
|---------------|--|--|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 前期末残高 | 10,000 | 10,000 |
| 当中間期変動額 | | |
| 当中間期変動額合計 | — | — |
| 当中間期末残高 | 10,000 | 10,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 前期末残高 | 8,208 | 8,208 |
| 当中間期変動額 | | |
| 自己株式の処分 | △ 0 | △ 0 |
| 自己株式処分差損の振替 | 0 | 0 |
| 当中間期変動額合計 | — | — |
| 当中間期末残高 | 8,208 | 8,208 |
| 利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | 35,850 | 36,422 |
| 当中間期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △ 298 | △ 249 |
| 中間純利益 | 1,181 | 927 |
| 自己株式処分差損の振替 | △ 0 | △ 0 |
| 土地再評価差額金の取崩 | — | 6 |
| 当中間期変動額合計 | 882 | 685 |
| 当中間期末残高 | 36,732 | 37,108 |
| 自己株式 | | |
| 前期末残高 | △ 118 | △ 122 |
| 当中間期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | △ 2 | △ 1 |
| 自己株式の処分 | 0 | 0 |
| 当中間期変動額合計 | △ 2 | △ 1 |
| 当中間期末残高 | △ 120 | △ 123 |
| 株主資本合計 | | |
| 前期末残高 | 53,940 | 54,509 |
| 当中間期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △ 298 | △ 249 |
| 中間純利益 | 1,181 | 927 |
| 自己株式の取得 | △ 2 | △ 1 |
| 自己株式の処分 | 0 | 0 |
| 土地再評価差額金の取崩 | — | 6 |
| 当中間期変動額合計 | 879 | 684 |
| 当中間期末残高 | 54,820 | 55,193 |

| | 平成20年度中間期 (平成20年4月1日から平成20年9月30日まで) | 平成21年度中間期 (平成21年4月1日から平成21年9月30日まで) |
|-----------------------|--|--|
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 528 | △ 2,428 |
| 当中間期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額） | △ 973 | 5,248 |
| 当中間期変動額合計 | △ 973 | 5,248 |
| 当中間期末残高 | △ 445 | 2,819 |
| 土地再評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 2,241 | 2,233 |
| 当中間期変動額 | | |
| 土地再評価差額金の取崩 | — | △ 6 |
| 当中間期変動額合計 | — | △ 6 |
| 当中間期末残高 | 2,241 | 2,226 |
| 評価・換算差額等合計 | | |
| 前期末残高 | 2,770 | △ 194 |
| 当中間期変動額 | | |
| 土地再評価差額金の取崩 | — | △ 6 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額） | △ 973 | 5,248 |
| 当中間期変動額合計 | △ 973 | 5,241 |
| 当中間期末残高 | 1,796 | 5,046 |
| 少数株主持分 | | |
| 前期末残高 | 234 | 239 |
| 当中間期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額） | 3 | 10 |
| 当中間期変動額合計 | 3 | 10 |
| 当中間期末残高 | 238 | 249 |
| 純資産合計 | | |
| 前期末残高 | 56,945 | 54,553 |
| 当中間期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △ 298 | △ 249 |
| 中間純利益 | 1,181 | 927 |
| 自己株式の取得 | △ 2 | △ 1 |
| 自己株式の処分 | 0 | 0 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額） | △ 970 | 5,258 |
| 当中間期変動額合計 | △ 90 | 5,936 |
| 当中間期末残高 | 56,854 | 60,490 |

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

| 科 目 | 平成20年度中間期 (平成20年4月1日から平成20年9月30日まで) | 平成21年度中間期 (平成21年4月1日から平成21年9月30日まで) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前中間純利益 | 1,836 | 1,799 |
| 減価償却費 | 508 | 535 |
| 減損損失 | — | 29 |
| 持分法による投資損益 (△は益) | △ 0 | △ 18 |
| 貸倒引当金の増減 (△) | △ 1,253 | △ 877 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 128 | 113 |
| 役員賞与引当金の増減額 (△は減少) | △ 14 | △ 9 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | △ 81 | △ 37 |
| 役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少) | △ 22 | 19 |
| 睡眠預金払戻損失引当金の増減 (△) | △ 6 | 1 |
| 利息返還損失引当金の増減額 (△は減少) | — | △ 11 |
| 偶発損失引当金の増減 (△) | 568 | 18 |
| 資金運用収益 | △ 11,914 | △ 11,385 |
| 資金調達費用 | 1,970 | 1,503 |
| 金銭の信託の運用損益 (△は運用益) | △ 299 | △ 13 |
| 有価証券関係損益 (△) | 76 | △ 211 |
| 為替差損益 (△は益) | △ 2 | △ 6 |
| 固定資産処分損益 (△は益) | 22 | 32 |
| 貸出金の純増 (△) 減 | △ 6,442 | 5,345 |
| 預金の純増減 (△) | 5,931 | 13,142 |
| コールローン等の純増 (△) 減 | 10,009 | 5,042 |
| コールマネー等の純増減 (△) | △ 166 | △ 80 |
| 商品有価証券の純増 (△) 減 | △ 16 | 1 |
| 外国為替 (資産) の純増 (△) 減 | 145 | 351 |
| 外国為替 (負債) の純増減 (△) | △ 6 | 1 |
| 資金運用による収入 | 11,778 | 11,326 |
| 資金調達による支出 | △ 1,679 | △ 1,683 |
| その他 | △ 466 | △ 237 |
| 小 計 | 10,605 | 24,693 |
| 法人税等の支払額 | △ 809 | △ 377 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 9,796 | 24,315 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有価証券の取得による支出 | △ 170,508 | △ 101,625 |
| 有価証券の売却による収入 | 15,116 | 22,248 |
| 有価証券の償還による収入 | 140,938 | 68,107 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △ 237 | △ 167 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 85 | 14 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △ 70 | △ 25 |
| その他 | 0 | 0 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 14,674 | △ 11,448 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| リース債務の返済による支出 | △ 60 | △ 102 |
| 配当金の支払額 | △ 298 | △ 249 |
| 少数株主への配当金の支払額 | △ 1 | △ 1 |
| 自己株式の取得による支出 | △ 2 | △ 1 |
| 自己株式の売却による収入 | 0 | 0 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 362 | △ 353 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | — | — |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △ 5,241 | 12,513 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 27,133 | 30,285 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 21,892 | 42,799 |

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(平成21年度中間期)

1 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社 2社 株式会社大光ビジネスサービス
たいこうカード株式会社
- (2) 非連結子会社 該当ありません。

2 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の非連結子会社 該当ありません。
- (2) 持分法適用の関連会社 2社 大光リース株式会社
株式会社東北バンキングシステムズ
- (3) 持分法非適用の非連結子会社 該当ありません。
- (4) 持分法非適用の関連会社 該当ありません。

3 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日はすべて9月末日であります。

4 会計処理基準に関する事項

- (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法
商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)により行っております。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
(イ) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあるものについては、中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- (ロ) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。
- (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- (4) 減価償却の方法
① 有形固定資産(リース資産を除く)
有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。
また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建物: 8年~50年
その他: 3年~20年
- ② 無形固定資産(リース資産を除く)
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
- ③ リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法によっております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取り決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- (5) 貸倒引当金の計上基準
当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認められる額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は5,781百万円であります。
連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ引き当てております。
- (6) 賞与引当金の計上基準
賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。
- (7) 役員賞与引当金の計上基準
役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。
- (8) 退職給付引当金の計上基準
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の損益処理方法は以下のとおりであります。
過去勤務債務
その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(8年)による定額法により損益処理
数理計算上の差異
各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌連結会計年度から損益処理
- (9) 役員退職慰労引当金の計上基準
役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退

職慰労金の支給見積額のうち、当中間連結会計期間末までに発生していると認められる額を計上しております。

- (10) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準
睡眠預金払戻損失引当金は、利益計上した睡眠預金について預金者からの払戻請求に基づく払戻損失に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。
- (11) 利息返還損失引当金の計上基準
連結子会社の利息返還損失引当金は、将来の利息返還の請求に伴う損失に備え、過去の返還実績等を勘案した必要額を計上しております。
- (12) 偶発損失引当金の計上基準
偶発損失引当金は、信用保証協会との責任共有制度等に伴う費用負担金の支払いに備えるため、過去の負担実績に基づく負担金支払見込額を計上しております。
- (13) 外貨建資産・負債の換算基準
外貨建資産・負債については、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。
- (14) 消費税等の会計処理
当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

5 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」であります。

注記事項

1 中間連結貸借対照表関係(平成21年9月30日現在)

- (1) 有価証券には、関連会社の株式17百万円を含んでおります。
- (2) 貸出金のうち、破綻先債権額は2,568百万円、延滞債権額は28,955百万円であります。なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- (3) 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は261百万円であり、なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- (4) 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は2,906百万円であり、なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。
- (5) 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は34,691百万円であり、なお、上記(2)から(5)に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- (6) 形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、13,409百万円であり、
- (7) 担保に供している資産は次のとおりであります。
為替決済、歳入代理店等の取引の担保として、有価証券64,305百万円及び預け金5百万円を差し入れております。
また、その他資産のうち保証金・敷金は188百万円であり、
- (8) 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は84,999百万円であり、このうち契約残存期間が1年以内のものが41,500百万円、任意の時期に無条件で取消可能なものが8,776百万円あります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
- (9) 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
再評価を行った年月日 平成10年3月31日
同法律第3条第3項に定める再評価の方法
土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法に基づいて、実行価格補正等合理的な調整を行って算出する方法によっております。
同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当中間連結会計期間末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 5,135百万円
- (10) 有形固定資産の減価償却累計額 9,021百万円
- (11) 借入金、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金2,000百万円であり、
- (12) 社債は、劣後特約付社債8,000百万円であり、
- (13) 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は6,045百万円であり、

2 中間連結損益計算書関係（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

その他経常費用には、偶発損失引当金繰入額289百万円、貸出金償却1,143百万円、株式等売却損107百万円及び株式等償却235百万円を含んでおります。

3 中間連結株主資本等変動計算書関係（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 前連結会計 年度末株式数 (千株) | 当中間連結 会計期間増加 株式数(千株) | 当中間連結 会計期間減少 株式数(千株) | 当中間連結 会計期間末 株式数(千株) | 摘要 |
|-------|-------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|---------|
| 発行済株式 | | | | | |
| 普通株式 | 100,014 | — | — | 100,014 | |
| 合計 | 100,014 | — | — | 100,014 | |
| 自己株式 | | | | | |
| 普通株式 | 374 | 5 | 0 | 380 | (注)1. 2 |
| 合計 | 374 | 5 | 0 | 380 | |

(注) 1. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取による増加であります。
2. 自己株式の数の減少は、単元未満株式の売却による減少であります。

(2) 配当に関する事項

当中間連結会計期間中の配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たりの 金額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成21年6月24日 定時株主総会 | 普通株式 | 249 | 2.5 | 平成21年3月31日 | 平成21年6月25日 |

基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 配当の原資 | 1株当たりの 金額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|---------------------|-------|-----------------|-------|-----------------|------------|-------------|
| 平成21年11月13日 取締役会 | 普通株式 | 249 | 利益剰余金 | 2.5 | 平成21年9月30日 | 平成21年12月10日 |

4 中間連結キャッシュ・フロー計算書関係（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | |
|--------------|----------|
| 平成21年9月30日現在 | (単位：百万円) |
| 現金預け金勘定 | 42,799 |
| 現金及び現金同等物 | 42,799 |

5 リース取引関係（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

① 有形固定資産

主として現金自動預け払い機等であります。

② 無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項」の「(4) 減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

●オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

| | |
|-----|--------|
| 1年内 | 96百万円 |
| 1年超 | 704百万円 |
| 合計 | 800百万円 |

6 セグメント情報（平成20年4月1日～平成20年9月30日、平成21年4月1日～平成21年9月30日）

(1) 事業の種類別セグメント情報

銀行業の経常収益、経常利益の金額は、全セグメントの経常収益の合計、経常利益の金額の合計額に占める割合が、いずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 所在地別セグメント情報

在外子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

(3) 国際業務経常収益

国際業務経常収益が、連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。

7 1株当たり情報（平成21年度中間期）

| | |
|---------------------|--------|
| 1株当たり純資産額 | 60.41円 |
| 1株当たり中間純利益金額 | 9.31円 |
| 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 | —円 |

(注) 1. 1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

| | |
|----------------|----------|
| 1株当たり中間純利益金額 | |
| 中間純利益 | 927百万円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | —百万円 |
| 普通株式に係る中間純利益 | 927百万円 |
| 普通株式の中間期中平均株式数 | 99,633千株 |

2. なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式がないので記載してありません。

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

| | |
|-------------------------------|-----------|
| 純資産の部の合計額 | 60,490百万円 |
| 純資産の部の合計額から控除する金額 | 249百万円 |
| うち少数株主持分 | 249百万円 |
| 普通株式に係る中間期末の純資産額 | 60,240百万円 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末の普通株式の数 | 99,633千株 |